

[成果情報名] クワシロカイガラムシのふ化盛期と天敵寄生蜂の発生時期との関係

[要約] クワシロカイガラムシの主要土着天敵であるチビトビコバチとベルレーゼコバチの発生のピークはクワシロカイガラムシのふ化盛期頃に、サルメンツヤコバチの発生のピークはふ化盛期から1週間～10日後頃にある。

[キーワード] チャ、クワシロカイガラムシ、土着天敵、寄生蜂

[担当] 農林技術開発センター・農産園芸研究部門・茶業研究室

[連絡先] 0957-46-0033

[区分] 茶

[分類] 指導

[背景・ねらい]

クワシロカイガラムシは、茶株樹冠内に生息するので防除が難しく、また発生が多くなると枝が枯死するため、茶の重要害虫となっている。加えて近年は発生が拡大傾向にあり、各産地で大きな問題となっている。一方で、本種は天敵による密度抑制効果が高く、長崎県には6種類の寄生蜂とタマバエ類がいることが明らかになっている。そこで、土着天敵を保護活用することを目的として、本県での優占種である3種の寄生蜂について、発生時期とクワシロカイガラムシの防除適期であるふ化盛期との関係を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. チビトビコバチは、クワシロカイガラムシのふ化盛期と雄成虫の羽化時期頃に発生のピークがある(図1)。
2. サルメンツヤコバチは、クワシロカイガラムシのふ化盛期から1週間～10日後頃に発生のピークがある(図2)。
3. ベルレーゼコバチは、クワシロカイガラムシのふ化盛期と雄成虫の羽化時期頃に発生のピークがある(図3)。

[成果の活用面・留意点]

1. クワシロカイガラムシのふ化盛期は防除適期であるが、この時期に発生のピークがあるチビトビコバチ、サルメンツヤコバチ、ベルレーゼコバチを保護活用することが重要であり、クワシロカイガラムシのふ化盛期頃には、これらの天敵に影響の大きい合成ピレスロイド剤や有機リン剤の散布を極力控える。

[具体的データ]

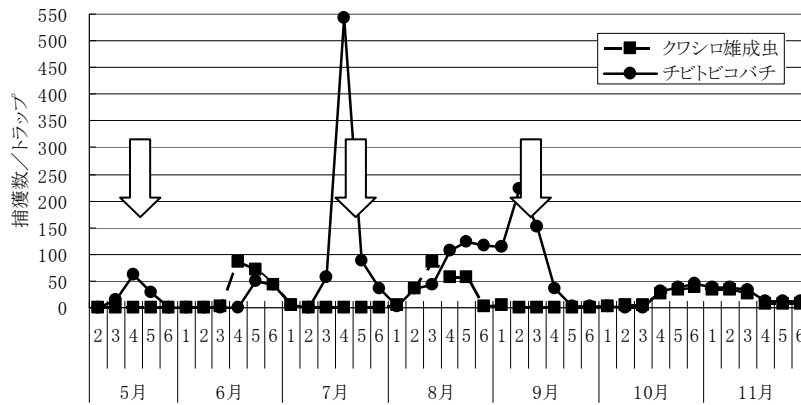


図1 チビトビコバチの羽化消長(2004年東彼杵、矢印はクワシロカイガラムシふ化盛期)

注)発生消長は黄色粘着トラップ(10cm×10cm 両面、3枚)による調査結果の1枚当たりの平均値である。

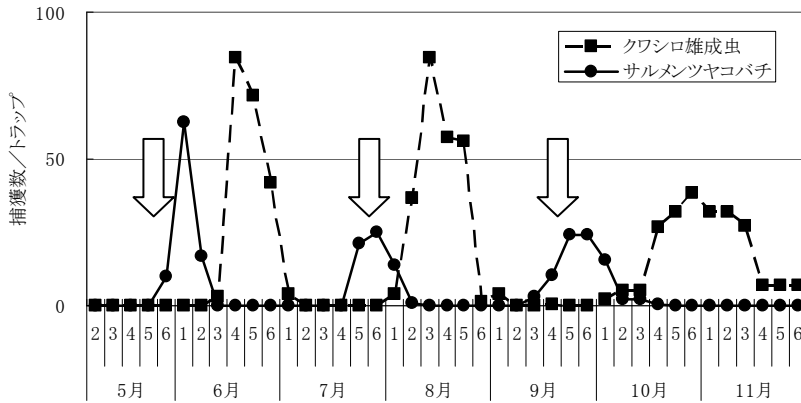


図2 サルメンツヤコバチの羽化消長(2004年東彼杵、矢印はクワシロカイガラムシふ化盛期)

注)発生消長は黄色粘着トラップ(10cm×10cm 両面、3枚)による調査結果の1枚当たりの平均値である。

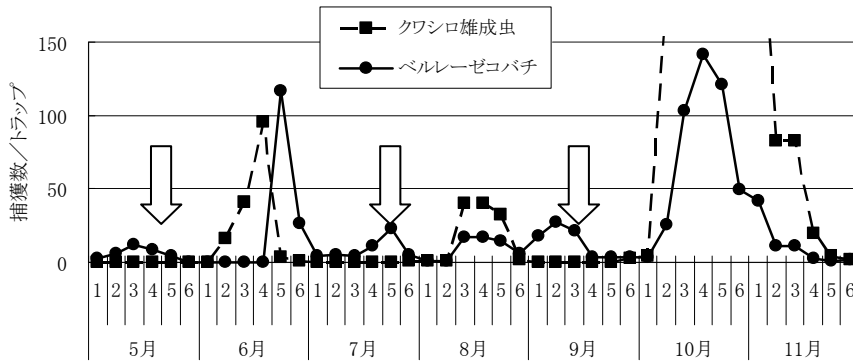


図3 バルレーゼコバチの羽化消長(2007年五島、矢印はクワシロカイガラムシふ化盛期)

注)発生消長は黄色粘着トラップ(10cm×10cm 両面、3枚)による調査結果の1枚当たりの平均値である。

[その他]

研究課題名：気象と生育予測による茶園管理技術とクワシロカイガラムシの防除法の確立、飲む人・作る人に安心な茶生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2004～2006、2006～2008年度

研究担当者：本多利仁、山口泰弘、森川亮一、寺井清宗